



投稿

支え合う住民パワー

今あなたができる応援を！

赤字の海を頑張るドルフィン
弓削〜尾道直行便、ホワイトドルフィンが復活して二ヶ月余りがすぎました。地域住民の皆さんからは沢山の「よかったです!」のお言葉を頂戴して船便は、離島の住民にとって船便は、ある意味死活問題です。ことに日常的に通院や通勤に使われているなら、本土への船便の存続は誰にとっても大切なものです。この一年間に本土への直行船便に関しては様々な出来事がありました。が、ともかく弓削の数社のNPO及び尾道市、岩城島の住民の強いご協力で、生名橋の架橋に伴い、その廃止されていた航路の一部、弓削〜生名間航路の復活が九月に実現し、現在に至っています。しかし船便をめぐる社会環境は日に日に厳しく、せっかく復航したホワイト・ドルフィンも赤字の海を航海しているのが実情です。

思いを行動に!

地域住民の力で ホワイトドルフィン号

弓削〜尾道直行便航路

を守り抜こう!

動く気がない我が町の行政
我が町の行政は、今のところそのことに対して冷たく突き放しています。新聞報道や、航路存続連絡協が発行して町民の皆さんにお届けしている情報の通りです。それに比べ尾道市はバス会社にかつて、十月一日から新浜の待合所まで、第一便の時間帯ですが、農協病院行きのバスをまわさせました。そのバスで行けば病院には九時ちょっと前に到着します。今度是我々が、皆さんが「頑張れ!」とホワイト・ドルフィンにエールを送る番ではないでしょうか。

かけ声だけでなく行動を!
応援するのはかけ声だけでは足りません。是非船便を利用して下さい。近場でも、遠くでも、ともかく機会を作って乗ってやってみて下さい。

たとえ小さくとも皆さんの行動の一つ一つの積み重ねが、利用者の数が少しずつでも増える方向にあるという事実を作るはずで、地域のみなさんの本気度を示すことになるのです。



観光誘致に動きまわす!
われわれ「尾道航路連絡協」(略称)も本土からの観光客誘致に向かって具体的に動いています。本土に沢山の弓削への誘いポスターを貼ります。インターネットを使って是非弓削へおいでと呼びかけます。弓削へ来たくなる仕掛けも提案します。しかし効果が現れるのはすぐではありません。その間、地域の皆さんと共にこの航路を支え続けるしかないのです。どうかよろしくご協力をお願いいたします。

(尾道弓削直行便 存続連絡協議会)

【画像説明】NPO頼れるふるさとネットと、尾道弓削直行便存続連絡協議会、及び協賛者として「インランドシーリゾートフェスバー」「しまでCafe」「ログハウス弓削」で作った観光客誘致ポスターです。

きょうち(十九)

青木喜代子

最近かまどで炊いたご飯を食べましたか?
アメリカ生まれのロケット・ストーブを改良し、携行可能としたすぐれもののロケット・ストーブ(エコストーブ)を、新しいもの大好きな友人が買った。さつそく半信半疑で借りて使った。燃料は割りばし、かまぼこ板、ソーメンの空き箱などの板切れなどなんでもOK。ほんまかいな。ほんまです。新聞紙、小枝でうまく点火したらあとはおもしろい位よく燃える。三合なら二十分で、おこげつき、カニの穴いっぱいのおいしいご飯が炊ける。

気をよくした私は湯を沸かし、コーヒーを入れ、夫と庭先で飲んだ。火のある間にと木片を足し辛汁まで炊いた。
一回目はあつあつの炊きたてを食べようと夕食の時間から逆算して火をおこした。秋の日はつるべ薄闇に
恋心
落しとしようまく言つたもので、あつというまに暗くなり、夫は投光器を出しスポットライトを浴びながらご飯を炊いてくれた。ストーブに突っ込んだ薪のチラチラ燃える火を見ながら、夫がかまどで炊いてくれたご飯を食べる火がくるなんて!。シ、ア、ワ、セ。身も心も大満足である。電気がなくても、やれば出来るぞ。
スイッチひとつでご飯が炊ける今、火をたいての作業は手間も時間もかかる。しかしゴミとしていた木片で、ご飯が、コーヒーが、果汁が。燃料費ゼロである。うれしがるの物好きがよつたかかつて週に何度かかまどで食事をつくれば、原発の一基くらいは要らんようになるかも。
かまどを自作したいのでペール缶が欲しい!と言つたら、翌日ドゥンと十個も届いた。楽しい事なら手回しでおしまし器用な友人を呼んで作るぞ。で、後はおいしいものを作つて酒盛りだ!
(記事にあるエコストーブはよみ亭にも見本があります。)

歴史家・村上貢さん

平成の寺子屋運動

で未来につながる

我が町の「広報かみじま」に連載中の、生名地区村上貢さんのシリーズ「史料が物語る郷土の歴史」は、町に残る史料の背面の歴史をひもといてくれ興味深い。先月十一月号の歴史探訪記事は「上島諸島の寺子屋」であった。

人格を分け与える
明治維新前の寺子屋や手習い、郷学校、私学の調査について、村時代の弓削小学校の報告には、「大工屋吉松が老齢のため寺子屋を開いて親しい者達の教育をした」とあるそう。

大工屋吉松は読み書きそろばん以外にも地域行事、将棋や相撲なども教え、体育、人との交流のための教養、というか、人付き合いの術をも教えていたようだ。殆どこれは今で言うボランティアで師匠吉松の人となり子ども達に伝える全人教育の相を呈していたことが想像できる。大工屋は、自らの全人格を子ども達に分け与えたのだ。

寺子屋に注目
教育の根本は何かと考えれば人物を育てるにあり。いま寺子屋教育に目を注ぎたいのは、われらが境遇には、外からの知見、若い知見が注がれる必要がある、その意味では移住者や昨今NPO等で活動している若い人たちが、この地で平成の寺子屋運動を展開してくれないかなあという思いがあるからだ。
(平山和昭)



弓削通信 フォニックス

2011.12.15 No.19 (通巻 146) Since 1991.6

発行者 平山和昭 ☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生 318-2
メール yugeru3@ray.ocn.ne.jp
ツイッター http://twitter.com/yugeru
ブログ http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish
発行支援 NPO「頼れるふるさとネット」印刷 相方印刷 (因島)

どういう生活がしたいのか
不確かなことを根拠に今を言
い切ればおめでたいとも無責任
とも言われかねないが、それで
もそう思っていられるのはなん

どはわからぬが、震災以来、人
間が安心して住める場所をと思
えれば「瀬戸内海」と真つ先に
思う。むしろその根拠は単純で、
過去巨大な罹災を経験したこと
がないから将来もそうであろう
という希望的観測にほかならな
い。まあそれはそれでこの楽観
性は生きる力の根源にはなるだ
ろう。

今になっては発言の真意のほ
どはわからぬが、震災以来、人
間が安心して住める場所をと思
えれば「瀬戸内海」と真つ先に
思う。むしろその根拠は単純で、
過去巨大な罹災を経験したこと
がないから将来もそうであろう
という希望的観測にほかならな
い。まあそれはそれでこの楽観
性は生きる力の根源にはなるだ
ろう。

硬軟ごさの葉加瀬太郎
盛況の内に終わらしたらしい上
島音楽祭。演者は著名なパイオ
リニスト葉加瀬太郎氏。生憎と
こちらはご用繁多?で聞きそび
れたが、後いろいろ面白い話を
聞いた。



とも有り難いことである。
「いい田舎具合」、実はこのこ
とこそ、つね日頃我々が希求し
ている姿ではないか。
生き馬の目を抜くような激し
い生存競争が性に合うなら、大
都市でもまれてすごせばよいし
その渦中に身を入れるのはむづ
かしくはない。逆に惚けたよう
な日々が欲しければ、それはも
う山中深く分け入るしかない。
それとて生き抜く事に關しては
かなりのスタミナが必要だろう
がそこに身を入れるのも難しく
はない。

い田舎具合」を喜び、もっと宣
伝したいと思うぐらいた。
この地で自分の能力を開花さ
せ、この地で起業し、自らの生
活を立て直す心を持ったヤング
やミデイの人々の移り住む場と
してもっともっと開放すればよ
いと思うのだ。
時代の先端にいなければ見え
ぬ起業のヒント
現代社会の起業とは、われわ
れお年寄りが想像する以上に多
岐にわたり細分化され、インタ
ーネットという媒体がそれを下
支えしている。
そういう中であつてなにを商
売にするかなど、実は時代の先
端にいななければなかなかヒント
は見えにくからう。
ところで人を呼び込むにあた
り先立つ問題は、この「開放」
ということ。この地で空き家が
増え続けているにもかかわらず、
それが貸し出されもせずただ朽
ちて行くのを如何ともしがたい
現実をどう解いてゆかか。
答えは最も身近に、つまり住
民のこころの内にあると思えて
ならないのだが。

よい田舎具合を宣伝しよう
我々の住むこの地は、その資
力に応じて、法治国家の法に庇
護されつつまずは安心の生活が
送れる。その人自身の求める生
活、身の丈に合った生活レベル
という点では都市部の比ではない
はずだ。人が少ない事、離島
である事も、むしろよい具合に
働いていて、したがってこの「良

よい田舎具合を宣伝しよう
我々の住むこの地は、その資
力に応じて、法治国家の法に庇
護されつつまずは安心の生活が
送れる。その人自身の求める生
活、身の丈に合った生活レベル
という点では都市部の比ではない
はずだ。人が少ない事、離島
である事も、むしろよい具合に
働いていて、したがってこの「良



「ユゲ〇トル」から世界へ
阿部純子さん

阿部の緩やかさの中でこそ
才能を開花させる機会が多くなるはずだ
ギャラリー「MAMI&JUNKO」(弓削)オ
ナーの阿部純子さんは、毎月第一日曜日午
前十一時よりギャラリー周辺で「ユゲ〇トル」
(ゆげまるとる)を開催している。フランス
のモンマルトルにあやかる命名。
阿部さん自身の三十年に及ぶ画家としての
キャリアを、この町の若い人が世界へ羽ばた
く支援に生かしたいと始めた活動だ。若い人
たちが自作品や島の特産品等を販売する経験
を通じ、自分を売り込む術、一流の芸術家と
の交流する術を会得して貰いたいと言う。
十二月の「ユゲ〇トル」では商船高専の学
生が似顔絵を描いて売っていた。

毎月15日 やよみ亭 映画 研究会
頼れるふるさとネット
連絡先 0897-72-9188
http://tayofuru.net/

オーケストラ
チャイコフスキー、モーツァルト
クラシックの名曲にのせて贈る、寄せ集めオ
ーケストラが巻き起こす奇蹟の物語。
笑って、泣いて、拍手喝采
未来が見えない不安な世の中に、
元氣と幸せをくれる感動作
日時：12月15日(木)午後七時開始
場所：やよみ亭 どなたでもお気軽に
のぞきにおいでください。

生きることは
芸術なのだ
安藤朋生 茨城県
彩りの秋も終わり装いはロマ
ンスグレーの冬へ。今年は栗の
渋皮煮も一、二度煮た程度。震
災の影響は未だ色濃く、しばし
訪れる余震に不安を拭うこと
が出来ない毎日。とはいえ先ん
でいてもしかたない。同じ一日
なら明るい気持ちの一日の方が
いい。精一杯生きねばいけません。
人は望むように生きられるよ
うに出来るんですって。だか

ら望みは大きく。必ずそこに到
達出来ると信じるのが大切な
んですって。娘を見ているとよ
く分かります。内から湧き上
がるパワーは彼女の精神を押し
上げ、人をも巻き込み、彼女の周
りにはいつも応援してくれる人
達が沢山いる。とても幸せな
ことです。正しく生きる良い手
本が目前にいる。恐れ入ります。
そんな良い手本を見逃してよ
いはずもなく、今年自費出版で
すが本を作る事が出来た。本に
使う写真を夏中撮ってきた
1冊。数人に渡せたのは秋口。

夏イメージ満載のその本を見て
驚かれたと思います。季節感の
ズレ。気にはなったものの出
したものは引つ込めたくない。変
な所で度胸がいいというか、単
純に気にしないのか。日々そん
な感じだから回避能力が低い
のかもかブツブツ言いつつも、
見てもらいたい気持ちが勝つ
てしまった。
悩むことは多い割には分かっ
ていない自分の内面。自分を育
てるのは本当に難しく子供を育
てるよりも大変。やっぱり自分
には甘くなるものだし、自分の

ことなら見て見ぬフリだって出
来ちゃう。全てが自己責任だか
ら難しいことにチャレンジする
意欲もどっか遠くなる。
「芸術は爆発だ！」岡本太郎さ
んの名台詞ですが、生きるって
想像力やエネルギー(気力や活
力)が不可欠で、むしろ望むよ
うに生きることに繋がる言葉な
のではと思うのです。子供の成長
を想ったり、町に来る人、島に
訪れる人達のことを考えたり。
想像力はアーティストだけのも
のではないんです。絵や器を作
ることだけが芸術じゃないん
です。生きることも芸術だと思
います。島への旅で秘めたパワ
ーを更に感じてみたいなあ。

